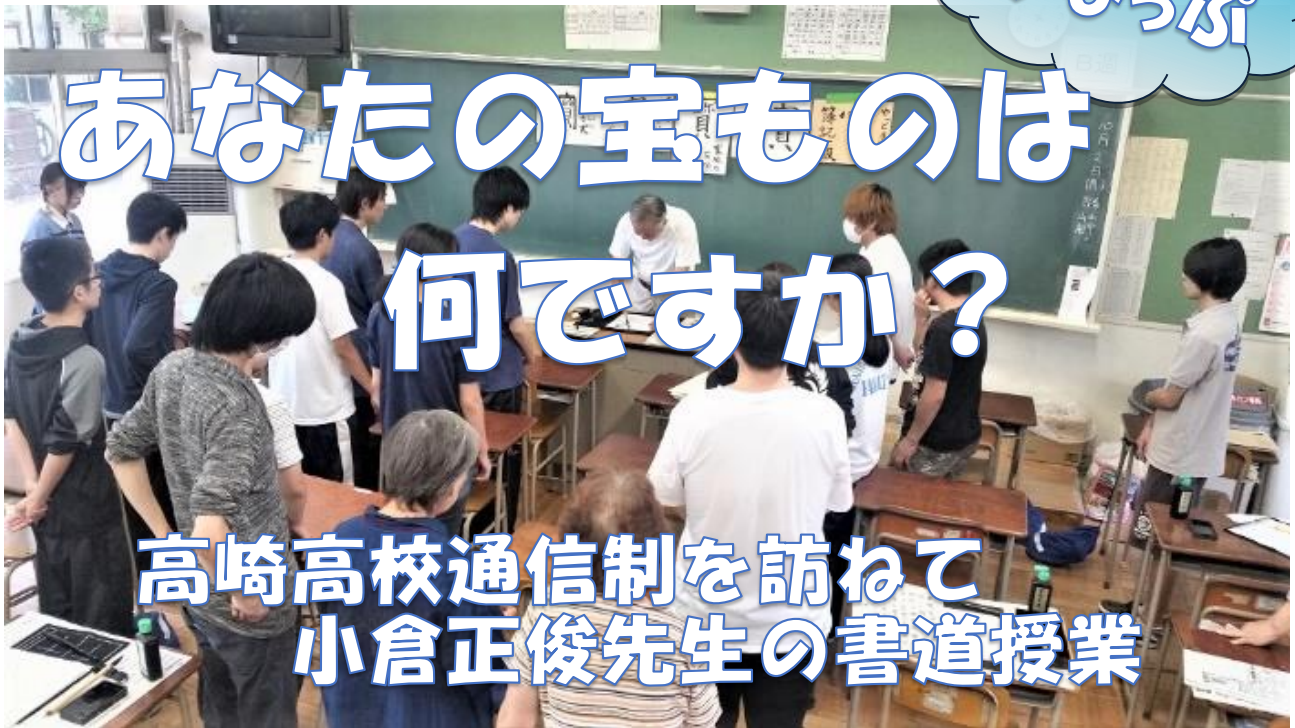


さりげないスナップ写真のすてきな笑顔のように
群馬の教育や文化の話題をふだん着のままで紹介するシリーズ



10月1日日曜日、秋晴れの空と風に誘われてどこかに出かけたい気分ですが、私たちは高崎市の西方の白衣観音の麓、高崎高校（加藤聡校長）を訪れました。通信制の教室ではスクーリングが行われ、生徒の姿と静かな熱意があふれていました。今回は、スタジオ楽書会のメンバー・小貫紘子さんと長塩三枝子さんに倉林順一、瀧口典子の4人で、小倉正俊先生の書道授業を中心に取材しました。



バラが生徒や訪問者を迎えてくれる

通信制高校とは

高崎高校の通信制には、15歳から80歳代までの387名（平成29年4月現在）が在籍しています。仕事や子育てをしながら、生涯学習として楽しみながらなどと、年齢・経歴・学習動機・職業などが異なる様々な生徒が自分のペースで学習に励んでいます。通信制の学習は、スクーリング（月2回日曜日の授業に出席）、レポート（自宅学習を中心にレポート作成・提出）、テストの三本立てです。そして、規定の出席時数、レポート回数、テスト回数をクリアすると、その科目の単位が取得できます。74単位以上取得するとともに特別活動に30時間以上出席することが卒業の条件です。特別活動は、始業式や生徒総会、文

化祭、球技大会、ホームルーム、進路講演会などです。現在、県内には他に、前橋清陵高校、桐生女子高校、太田フレックス高校に通信制課程が設置されています。

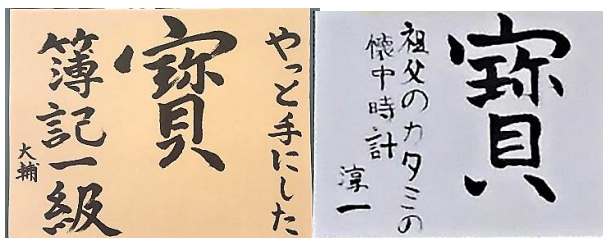
書道の授業

課題は「私の宝もの」

私たちが訪れた午後12時40分からは、英語、書道、総合学習の授業が開講されていましたので、まず、書道の授業（小倉正俊先生）を見学しました。生徒は15人（男子12名、女子3名）、思い思いの机に向かっています。

今日は書道5回目と6回目、2時間続きの授業です。今日の課題は「私の宝もの」…自分にとって大切なもの、かけがえのないもの、

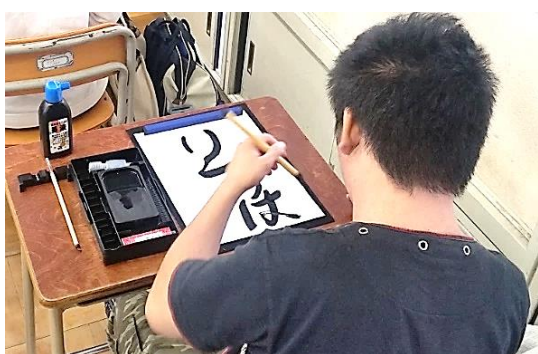
育てたいもの・ことを考えて表現します。仕上がった作品は11月に開催される『高校芸術祭』に出品するということでした。



先生が黒板に作品を貼りました。「宝」という文字がそれぞれの字体で大きく書かれ、その余白を使ってそれぞれの「宝もの」が書いてあります。「やっこと手にした簿記一級」「祖父の形見の懐中時計」「家族の笑顔」「大事に乗っているバイク」「十才になった犬」…過去の生徒の作品です。今日の生徒たちは、どんな「宝もの」を見せてくれるのでしょうか。楽しみになってきました。

字体選びと仮名の連綿

それにしても、「宝」という字はいろんな書体があるんですね。配布されたプリントには、33の書風がありました。生徒はその中から気に入った一字を選び、先生にお手本を書いてもらい練習します。前回から継続の生徒はすでに書き始め、それぞれ自分の宝を書き加えていきます。やがて、先生が「これからつなげて書く練習をしますよ。前に出て来て、見て下さい」と書いて見せてくれました。いろは歌の仮名文字です。「い」から「ろ」へ、「ろ」から「は」へ、とつなげます。「つなげて書く筆使いに慣れてね。自分の宝を書く小さな文字はつなげられればつなげてみて」とアドバイスしました。

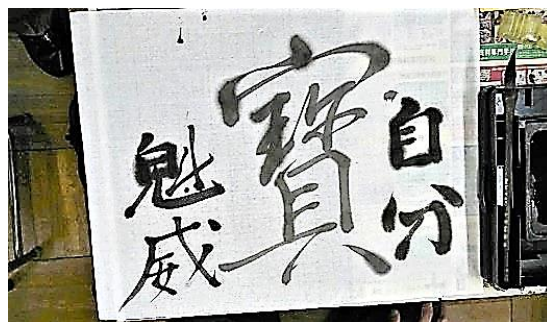


生徒はそれぞれ思い思いのペースで書に取り組み始めました。静かな、でも集中して熱のこもった時間が流れていきます。

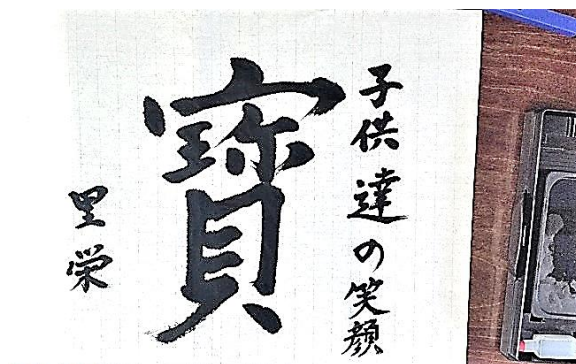
私たちは最初は遠慮して後ろで見ていましたが、生徒の作品に興味津々、だんだん近づいて拝見させてもらいました。

休み時間にインタビュー

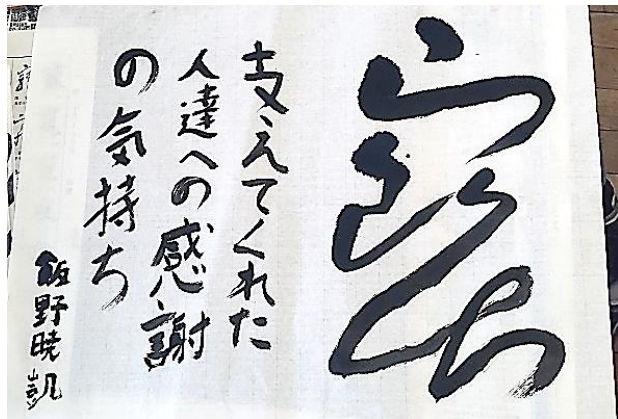
◆一人だけ墨を薄くして書いている男生徒に「こだわりがあるの?」「そうですね。(書道の授業は)好きにやらせてもらえるので好きです。答えがない。1+1は2と決まってない。ぶっちゃけた話、こういう文字もどの順番に書いてもいいじゃないですか。自由でいい。彼は、なかなか宝の中身を書き加えない。終わる頃になってやっと「自分」と書いた。「今はまだはっきりしていない。これから宝物を探そうとする自分が今の宝です」と説明してくれた。なるほど。



◆「宝…子供達の笑顔」と書いた母親らしい女生徒に「家族持ってて学校に来るの、大変じゃないですか。」「大変だけど…。中学生の子が不登校なんで、そのきっかけになればと思って。中3なので、今度学校選ぶ時に。(自分は)仕事と学校の両立はやはり大変ですね。」



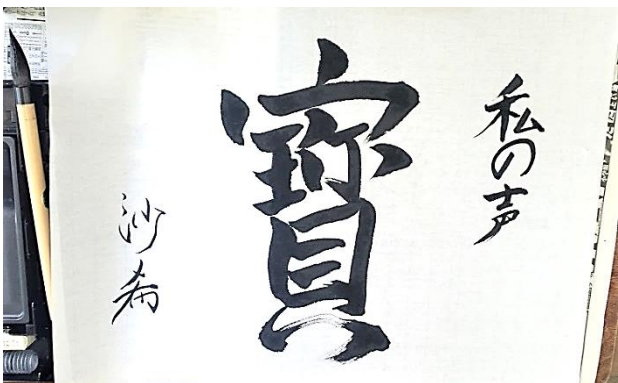
◆「支えてくれた人達への感謝の気持ち」と書いた男子生徒は草書体で宝を書いた。その理由は「人との関係を表現するのに堅い字はふさわしくないと考えた」から。草書体を書くのは初めてだとのこと。



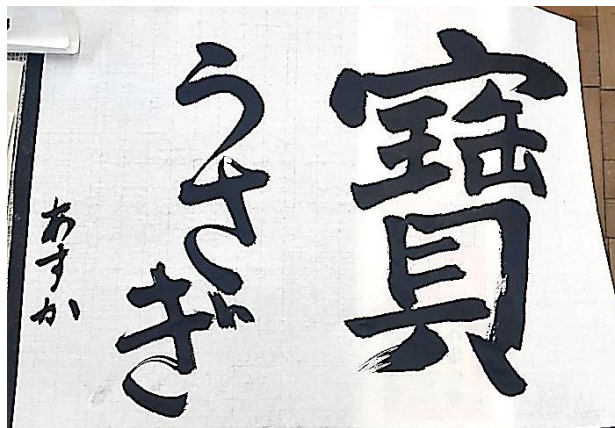
◆「人生の先生 父と母」と書いた男子生徒は最初「・・・両親」と書いたものを書き直していた。「同じ親でも学ぶことは違うから」というのがその理由だった。



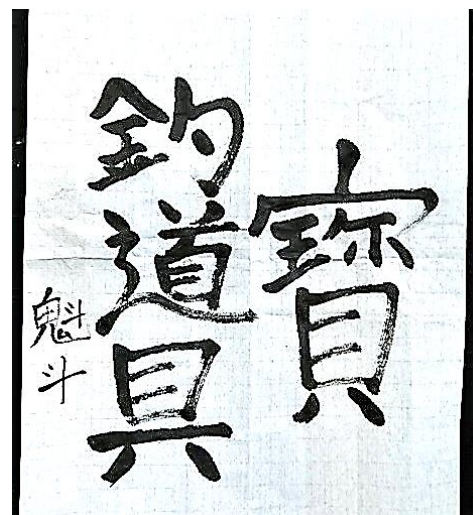
◆「私の声」と書いた女子生徒は声優を目指している。オーディションも受けた。声は自分の人生を切り開く手立てになるもの。提出作品には「私の」がなかった。みんなの声が好きだと言った。



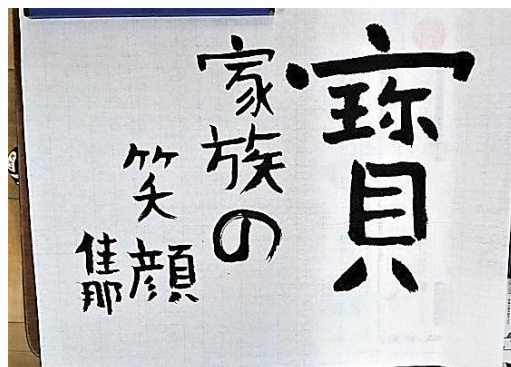
◆「うさぎ」と書いた女子生徒の宝は野ウサギのような茶色いうさぎ。お父さんと世話をしていると言う。



◆「釣道具」と書いたK君の宝は亡くなったおじさんにもらった釣り道具。今はまだ大切にしまっている。就職したら免許を取って新潟の海に友達と釣りに行くのが夢と語ってくれた。文字の配置に悩んだ彼は小倉先生のアドバイスを受けて紙を縦に使った。しっかりおさまった。



◆毎日、家族に癒されているという女子生徒の宝は「家族の笑顔」と笑顔で語った。



☆☆☆小倉先生にお聞きしました☆☆☆

Q1：高高通信制で教えてみて、いかがですか。

A：どの生徒もとてもまじめに真剣に取り組んでいるでしょう。張り合いがありますよね。

**Q2：授業の計画を
教えて下さい。**

A：書道の授業はたった12時間です。最初に筆使いをやって、楷書、行書、そして今回の作品づくり、仮名文字、最後に現代文。自分の書きたい言葉を作って書に表現する。そんな流れです。

**Q3：通信制ならではの
ご苦労がありますか。**

A：毎日通ってくるわけではないし、毎回のスクーリングに続けて登校してくれるとも限らないから、継続性という点でなかなか積み重ねていけないですね。前に教えたことがすぐには身につかないです。

Q4：今日、先生はあまり生徒の字を直したり、あれこれ指導されていないように思いましたが、それはなぜですか。

A：必要があれば添削もしますが、あまり細かいことは注意しません。筆順などもいちいち指摘すると生徒は気にして筆が動かなくなるのです。それよりも、嫌がらずに気持ちよく筆を動かしてくれる方がいいと考えています。



通信制は全日制より楽？

高崎高校のホームページにこんなQ&Aがありました。

「通信制は毎日通学しないので楽だと思われがちですが、勉強する量が少ないわけではありません。また授業で教わるのではなく、自分で教科書を読み、勉強しなければなりません。勉強は全日制や定時制よりも大変といえます。

でも勉強がわからなくなった時には、先生がサポートしてくれます。登校して質問しましょう。「生徒控え室」は平日も使えますので、遠慮しないで登校して自習し、わからなくなったら先生に質問しましょう。」

また校外夜間スクーリングと言って、教科の先生が校外の会場へ出かけて、学習の手助

学習を支えるさまざまな取り組み

けをしています。会場は、前橋中央公民館、高崎市中央公民館、新町公民館、藤岡公民館、富岡市生涯学習センター、渋川中央公民館、伊勢崎北公民館と広い地域にわたっています。

こうして、実際に卒業できた生徒は毎年30～40名で、入学者数の3～4割です。「自学自習」を継続する強い意志が求められると言えましょう。

卒業生の進路状況をホームページで見ますと、すでに定職に就いている生徒が多い中、大学や専門学校への進学をめざす人も増えています。新規就職は学校でも斡旋していますが、ハローワークを利用する人も多くなっています。

通信制高校は教師にとっても居心地の良いところ

小倉正俊（号・釣雲） 非常勤講師書道担当

通信という課程があり、多様な生徒が学んでいることは以前から知っていました。高校教師を退職後 5 年間 NHK 学園の高等部の非常勤で書道を担当した経験もあります。高高に通信があることも知っていました。前任の渡辺正子先生の急逝に際し、親交があった藤倉校長、亀島先生より

依頼を受けて 2012 年 2 月から務めています。老若男女と言え大袈裟かもしれませんが、そんな感じの多様な生徒がいる教室です。

専任書道教師として 35 年の経験から 2 単位 70 時間の授業展開は日本一との自負があります。（書道全国大会で私の発表を文科省の講師がこうした授業をして下さいと全国から参加の先生方に講評したことがある）しかし通信の 12 回のスクーリングでの授業は大いに戸惑いました。書Ⅰ（※）としての目標もあり、私としてもやりたいこともありますから。そうした条件を何とか克服してたった 12 回の授業ではあるが書の楽しさ、優しさを気づかせることができ、こんなに集中し一生懸命に筆を執る生徒に作品を造らせ発表の場を与えたいと思いました。幸い高高には翠巒祭と称する文化祭が毎年開催されますので、先ずその参加を企画しました。テーマは「夢」彼らの豊かな生活体験から、生徒それぞれの夢が語られ文字造形となり教室を飾り好評でした。次ぎに高校芸術祭書道展参加と発展させました。芸術は自己主張を、想いを形にするものです。通信の生徒の声を形にすることは、こうした環境の下で学んでいる高校生もいるという発信にもなると思いました。こちらのテーマは「宝」です。しかし文化祭においては 4 月新学期から 2～3 回目の授業で書



き上げなければなりません。高校芸術祭についても 5～6 回目までの授業での作品です。両テーマの設定は何れも自己を振り返る、自己のこれからを見つめることを期待しています。そうすることが通信の生徒の多様な生活体験から来る奥の深い作品になり、他の高校生とはひと味違う作品になると思いました、技術不足は否めませんが。

書が文学と造形の両面があって成り立ち、しかも文章文字は順をおって書いていく時間表現の制約にこそ制作が可能であることは無視できませんが、とにかく全てが限られた時間のなかで行われます。筆を持つこと、授業に出ることを楽しいと思ってほしいと多少の問題点（例えば筆順など）は流しています。

「夢」は「卒業すること」。「宝」ものは「家族の笑顔」「子供の健康」「友人との絆」「両親への感謝」こんな言葉を自分の思いとして表現してくれる生徒に出会えたことに感謝していますし、自分にとっても居心地の良い場所なのです。

※書Ⅰ 高校の書道授業には書Ⅰ・書Ⅱ・書Ⅲがありますが、最も基礎的なことを学ぶのがこの書Ⅰ。



高崎高校通信制のスクーリングを参観して 取材班 小貫紘子

今回は初めての経験でしたがいろいろ思うところがあり大なる刺激を受けました。

出席者のほとんどの生徒は若者で、真面目に書道に取り組んでいる姿は、とても新鮮でした。

「宝」という書体は、30種類ほどの書風の中からも余り迷わず決める人が多く、それぞれ堂々と筆を運んでいましたが、「自分の宝」となると、筆が止まりがちでした。出てきた文字は「健康」とか、「父と母に感謝」とか、「自分」「声」「釣道具」「うさぎ」「犬」など 優等生的なもの、個人的なものが多いように感じました。

一人だけ、文字をみんなと違い墨を薄くして書こうと苦心している男子生徒から「書道は何をどう書いても自分の自由だから選んだ。書き順だってどちらから書いたっていいじゃないですか」という声が聞かれました。

書き順について先生に生徒の考えを伝えたところ、「いやあ、せめて自分の名前くらい正しい書き順で書くようにと言ってるんだがなかなかねえ」と苦笑いされていました。

取材を終えて

《取材班 倉林順一》

全日制にせよ定時制にせよ、毎日大勢の仲間と触れ合いながら、時には対立しながら学ぶことが当たり前ですが、通信制にはその機会が限られています。しかしそれだから通える生徒もいて、そのような環境だから自分のペースで成長することができるのではないのでしょうか。

今回の取材で授業がとても静かに進められていましたが、同時にとても濃密な時間にも思えました。あのゆったりした時間の中で宝物について考え、自分の手で表現するということは豊かな経験であるに違いありません。

このような形での学習を保証し、生徒の成長を支援する仕事である通信制の役割の大き

彼の薄墨は小倉先生も注目されていたようで、薄墨でご自身も書かれ、黒板に貼り、かすれても滲んでもいいんだ、それが書道の特徴だからというようなことを、全体に対して言われました。

自分を自由に表現するということは、書に限らず、難しいことです。でも、先生は敢えて口を出さず、自由にさせて、まず楽しみ、自分で気がつくのを「待つ指導」のスタイルをとられているのではないかと思います。

私自身、自分を表現できる自由さを求めても、具体的にどうやって書いたらいいのかわからない、こんなこともアリだよ、もっと遊べ、もっと殻を破って自分を表現していいんだと思っても、いつもなかなか書けないでいます。私は、この若者たちの背中を押したくなってしまいました。

それぞれの事情から、通信制という勉強方法を選んだ人たち、これからバイトに急ぐ者、次の授業の教室へと散っていく者、それぞれの若者にエールを送りながら、校舎を後にしました。



高崎シティギャラリーで開催された高校芸術祭に展示された高高通信の『宝』作品群。このコーナーは輝いています。

さや、そこに学ぶ生徒の姿を多くの方々に伝えられれば幸いです。

お忙しい中、対応して下さった小倉先生、中澤教頭先生をはじめ職員のみなさま、ころよく取材に応じてくださった生徒のみなさまに心より感謝申し上げます。

《取材・撮影：小貫紘子・倉林順一・
瀧口典子・長塩三枝子》